

磐城公論

行發日卅・日五十(回二)月每

福島縣石城郡平町字研町十九番地
編輯兼發行人 山田 綠 雨
印刷所 二葉印刷所
福島縣石城郡平町字研町十九番地
發行所 磐城公論社
電話四〇八番
廣告料 五號十二字詰一行五十錢
場所指定拾錢増
定價一部十錢 一年貳圓四十錢

△聲明
國家内外ノ現勢ヲ深觀シ、自家將來ノ大成ヲ願フシテ、不肖事本月一日ヲ期シテ斷然禁欲克己生活(殊ニ酒色禁斷)ニ入りマシメ、同時ニ中央進出計劃中デアリマス。
山田 綠 雨

第一次普選議會と議會人に與ふ!

(公開狀に代えて)

主幹 山田 綠 雨

光榮ある普選の政戦は、幾多の教訓と悲、喜劇をのこして終つた。そして、第一次の普選議會は、今や開會最中である。

田中首相をはじめとし、各閣僚、並びに政府與黨たる政友會とその一黨の諸黨人は、如何なる確信と抱負を以つて、又如何なる對議會方針と戦術を以つて、コノ光榮ある政治的劃期の普選第一次議會に見えんとする更に逆問す、民政黨の對策や如何? 世界列國環視の下に、千二百萬有權者諦觀の下に普選議會は、花々しく開かれた。

而も、今よりして、先見豫察せらるゝ一事は、衆議院に於ける議會内「理論鬭争の激烈化」である。更に憂慮に堪えざる一事は、與黨、野黨の理論鬭争最高潮に達する秋、感情の激發する所、冷靜なる理性を失ひ、街頭、泥酔の匹夫野人が常習慣行する下劣なる言論、野蠻なる暴

力的直接行動をなすが如き事なきかである。

かつての衆議院は、かゝる例證——議會の品位を低下し、神聖なる立法を冒瀆し、議員全體の不名譽となるが如き例證をもつた事あるは、未だに國民の記憶に新なるものがある。苟しくも、國民の選良、千二百萬有權者の代表として、言論自由の府たる立法院に參して、かゝる下劣野蠻なる言動を敢行するが如きは言語同斷、沙汰の限りである。

記者をして、無遠慮に率直に云はしむれば、大正末期より昭和にかけての帝國議會には、傾聴に價する一の雄辯なく、正義に立脚する公平公論なく、主義政策を以つて正々堂々の論陣を張り愛國的大義と立憲的公論に即する公明正大の政論なしと斷ずるものである。

犬養木堂が一片の孤城、國民黨を死守して奮戦した往年の議會を偲べば、犬養氏自身も亦吾れらも、實に感慨無量である。『政黨は、金が國士木堂をして、『政黨は、金が

なくては、やつてゆけぬ!』と長嘆せしめて、敵の軍門に降伏したる悲劇的心事は誰か涙なくして、き、得るものぞ!

政黨と利權、政治家と金錢問題が不可分事と相成つては、われら何をか云んやだ。

加之、神聖なる議會に於て、野卑なる言論と、暴力的直接行動をなすものあるに至つては、われらは『日本立憲政治の名において』之れを彈撃せざるを得ない。

第一次普選議會は開かれた。冀はくは、此の光榮ある議會をして日本憲政史を飾る精華たらしめよ。忝けなくも、

明治大帝陛下の御尊靈は、桃山御陵より此度の議會を御嚴監遊さる。議員諸君三千年來の光榮ある國史を追懷し、千二百萬有權者の熱烈なる期待を深觀し、而も卿等の背後には『清キ一票』を投じたる郷土幾萬の有權者が嚴重に卿等の行動を監視して居る。卿等は國際オリムピック

競場に立つたチャンピヨンの如く、愛國的大感激の精神を振起さして、昭和維新、光榮ある普選議會の公論壇頭に、決死的覺悟を以つて健闘せられん事を熱求する。

時事斷觀

△櫻花は萬葉を飾る。敷島してやまない。の大和心を象徴する櫻花は、千枝萬葉を滿飾した。自然の花は華麗に咲いた。見事に開いた。胸を開いて、清新の大氣を呼吸しやうではナイカ? 目を張つて、萬葉の櫻花を諦觀しやうではナイカ!! 府與黨も、在野黨も會々聲然の春を、心ゆくばかり徹底的に享樂しやうではナイカ!

現代人は、四苦、八苦千辛、萬苦に包圍攻撃されて居る。曰はく、世界苦、生活苦、曰はく、思想難、主義苦、鬭争苦、曰はく、戀愛苦、結婚難、曰はく、税金苦、勞働苦、就職難、入學難、失業苦、曰はく、何々、等々、深觀すれば現代は苦難地獄の觀があるではないか。

せめては、花下半日、月前半夜の詩的生活を許せ! せめては、草枕して蒼空を見入るだけの餘裕を興へよ!

現代の日本人は、餘りに苦み過ぎはしないか? 受難過多の結果は、女はヒステリック、男はヒコボンドリックになり、人心不安、思想渾沌、政局動搖、物肉鬭争、主義亂闘邪惡血戰の世相となる。毎日の新紙は世相の現實——世の中の有様を生々しい事實を以つて大衆讀者の直前に提供

「廣ク會議ヲ起シ、萬機公論ニ決スヘシ」
御誓文の御趣旨を奉て居る。曰はく、斯民のために、丹心を披瀝して奉仕せらるゝ所なるが故に、われらは、政治家諸君に對して滿腔の敬意を表し、最大の感謝を捧ぐるも何々、等々、深觀すれば現代は苦難地獄の觀があるではないか。然り矣! 吾人は政治家諸君の報國の丹心に對して、無條件にて、斷然敬意と感謝を捧表するものだ。サリ乍ら、昨今の日本の政黨政治家諸君に對しては維新回天當時の志士仁人風的眞正政治家を思慕憧憬崇拜尊敬する程の「心の態度」を持つわけにいかない。現代人感奮なきがためか、敢えて各政黨々首諸君に新事を問ふ。卿等國民大衆の信頼と尊敬と崇拜の金のたふんと欲せば、一舉手

(二面へ續く)

大平市創建に直面して

噂にのぼる新顔町議候補とその短評

市制施行も直前にある。而して、町議選も来年初夏と迫つた。或はその任期中大平市々々議員となり得るかも知れぬ「選人」諸君は、日常平生の心掛けが肝要である。いくら〇があつたからと、所謂且那株でも、昭和維新、普通選挙の聖代に於ては、何の役にもたない。

所詮は、彼れが如何に、地方自治體の選人としての充分なる資格をもつ乎。又、彼れが如何に、自家の生活環境たる平町に對して一切實なる關心をもつ乎。更に愛町の至誠、如何ばかり深刻か、等々。

挙げれば、町議たる資格と條件、マコトニ多々だ。やがては、政黨政治的感情を一掃して、各階級、各職業、各團體、各組合等を代表しての最新式立候補者も政戰の現面に跳躍しやう!!!

さうであらねばならぬのだ!!! 地方自治體を黨派的闘争外に超越せしめねばならぬ特にならざるに於ては、左に噂の人々を簡潔直裁に、彼れの一面觀をフリス、ヒールやう。

山野邊東次郎君 茫漠として捕捉し難き所あり、熱あり、策あり、而して、一度試みた事がある。在平、藥種業界を代表して例のテキバキした口調で「本員は……」

と、嚴そかにきり出す野人の姿を一日も早く、見たいものだ。性、極めて淡泊寸鐵殺人的奇警語句を發放して痛快に人の肺腸をえぐる。

馬目雅治君 平に於ける舊名家、茗荷屋本家の重石としての君が、責務は重且つ大だ。民政黨顧問、床次竹次郎氏の青年時代を彷彿させる様な風采と心意氣の持主。

流石は、森の都、仙臺青葉城下の人だけあつて、

諸橋元三郎君 かつて、「帳場の怪人」と銘打つて、フリス、ヒールして表面に擡頭せず、故にた事がある。豪氣果斷の經君の手腕、力量、才幹、人濟人、明快、透徹の巨頭の格は未だ知られないが、し所有者、一見冷静を装へどか、しが、やがては、岳父を凌も、心底の活火は、目にこぐ人物たる事必定。

山野邊義政君 兩君とも、法曹界の新人だ。山野邊君は、冷靜幽水の如く、動せず、騒がず哲人の如くしめやかに處女の如くつゝ、まじくある仁だ。眞木君は純生「平つ子」として、漢學者眞木水竹先生の直系血屬人として、由緒正しき家系をもつ。

眞木 桓君 眞木君は純生「平つ子」として、漢學者眞木水竹先生の直系血屬人として、由緒正しき家系をもつ。

吉田寅之助君 民政黨石城部會常任幹事として、黨内外の信望厚く世話好きで几帳面な潔癖な性格の人。

吉村安次郎君 吉村綿店經營者として當り地製綿界に縦横の手腕を揮ふ。用意周到、思慮綿密の常談家。

小松 茂君 ナカ／＼かぬ氣の人酒屋の主人として、一個の商人としてあるよりは、政黨人として、東奔西走、南船北馬、政黨のために活動させたま仁である。

酒井 清君 警中十二回出。平町支關口の富樫左衛門として、長驅肥身を横へて、やがての飛躍を待ち構えて居る。

瀧澤俊平君 俊敏の經濟人、聰明過ぎる程透徹した明智の所有者中野頭取の懐刀として、縦横の快腕を振ふ。

井上貞治郎君 平町、青年中、第一流の人物として、余は滿腔の敬意を表す。君は、裏面にあ

授にも、停年退職の學制がある。學問に國境なく、年流轉、千變萬化の政界の急を現出した。送電線は新ら一投足、出處進退、公々明齡なく、人種はない筈だ。潮に棹して、「より善き自し」になつた。規定のポルト々、正々堂々、正に國家代が矢張り、動脈硬化し、頭治」と「より良き生活」とはある。従つて燭光も規定表的人物としての手本を明腦化石し、老衰した學者で而して「理想郷」を創建す通りある。

は世界最新の思想、知識を有するに、青年政治家少壯政青年學徒に教ふるに不適當治家に限るのだ。

ユーマーの人物管見 ユーマーの人物管見は、眞面目で今は北日本の電氣王國、東はあれど、人間味豊かであ部電力會社の重要金穴たる由。何となれば、彼れは石城平營業所々長としてユーマー「諸君、又は高縦横の快腕を振ひ、内外の士に捧ぐ」殉郷の丹心に感本の政治家諸君! 卿等は尙にして、上品なる皮肉) 信望を一身に集めて居る君現境は、蓋し多少の苦勞が現境は、蓋し多少の苦勞を解すればである。

武田精一君 英國の紳士は、眞面目で今は北日本の電氣王國、東はあれど、人間味豊かであ部電力會社の重要金穴たる由。何となれば、彼れは石城平營業所々長としてユーマー「諸君、又は高縦横の快腕を振ひ、内外の士に捧ぐ」殉郷の丹心に感本の政治家諸君! 卿等は尙にして、上品なる皮肉) 信望を一身に集めて居る君現境は、蓋し多少の苦勞を解すればである。

余が親敬やまぬ、東部電ありと雖も又君が心中の得意株式會社、平營業所々長意思ぶべしではないか。武田精一君は、英國紳士風余は、君に對して私的恩の人間味豊かなユーマー義を蒙る。「數年前、或問トだ。時たま寸鐵殺人的警題の調停者として、余のた句を發放して、對者の心膽めに盡方せられた。しかガキヤリ、チヌリ、七首一し、それは私的問題である。閃の皮肉をカッ飛ばして微余は公私混同を絶排する。苦笑する。

君は春風以つて人に接し如、電燈問題を提げて平劇秋霜以つて自らを警しむ底場に演説會を開き、そが合の「自製の人」(セルフ、理的、合法的、平和的解決メイト、マン)だ。世の所促進のため、「大義親を減オツチヨコチヨイの才す」の大感激の下に斷然起人、策士とその選を異にした。

余は、貧弱な財布より數志を伸べんため、五月より十圓支出し、月餘調査研究東京生活が多くなり、私代かけて、數十年間、國民血沸騰する義人の面影があして、警告的演説をなしたさい。近代科學の粹たる電氣會社警城の天地に萬一思想を敢行するせぬ。少くとも、世界思ありとすれば、須らく、余究し、時代の潮流に棹して深觀猛省百番せよ。而も余明なる現代青年を長敬承服の如き無名の老書生が「郷せしめんとならば、現代日士に捧ぐ」殉郷の丹心に感本の政治家諸君! 卿等は尙にして、上品なる皮肉) 信望を一身に集めて居る君現境は、蓋し多少の苦勞を解すればである。

余が親敬やまぬ、東部電ありと雖も又君が心中の得意株式會社、平營業所々長意思ぶべしではないか。武田精一君は、英國紳士風余は、君に對して私的恩の人間味豊かなユーマー義を蒙る。「數年前、或問トだ。時たま寸鐵殺人的警題の調停者として、余のた句を發放して、對者の心膽めに盡方せられた。しかガキヤリ、チヌリ、七首一し、それは私的問題である。閃の皮肉をカッ飛ばして微余は公私混同を絶排する。苦笑する。

君は春風以つて人に接し如、電燈問題を提げて平劇秋霜以つて自らを警しむ底場に演説會を開き、そが合の「自製の人」(セルフ、理的、合法的、平和的解決メイト、マン)だ。世の所促進のため、「大義親を減オツチヨコチヨイの才す」の大感激の下に斷然起人、策士とその選を異にした。

余は、貧弱な財布より數志を伸べんため、五月より十圓支出し、月餘調査研究東京生活が多くなり、私代かけて、數十年間、國民血沸騰する義人の面影があして、警告的演説をなしたさい。近代科學の粹たる電氣會社警城の天地に萬一思想を敢行するせぬ。少くとも、世界思ありとすれば、須らく、余究し、時代の潮流に棹して深觀猛省百番せよ。而も余明なる現代青年を長敬承服の如き無名の老書生が「郷せしめんとならば、現代日士に捧ぐ」殉郷の丹心に感本の政治家諸君! 卿等は尙にして、上品なる皮肉) 信望を一身に集めて居る君現境は、蓋し多少の苦勞を解すればである。

余が親敬やまぬ、東部電ありと雖も又君が心中の得意株式會社、平營業所々長意思ぶべしではないか。武田精一君は、英國紳士風余は、君に對して私的恩の人間味豊かなユーマー義を蒙る。「數年前、或問トだ。時たま寸鐵殺人的警題の調停者として、余のた句を發放して、對者の心膽めに盡方せられた。しかガキヤリ、チヌリ、七首一し、それは私的問題である。閃の皮肉をカッ飛ばして微余は公私混同を絶排する。苦笑する。

君は春風以つて人に接し如、電燈問題を提げて平劇秋霜以つて自らを警しむ底場に演説會を開き、そが合の「自製の人」(セルフ、理的、合法的、平和的解決メイト、マン)だ。世の所促進のため、「大義親を減オツチヨコチヨイの才す」の大感激の下に斷然起人、策士とその選を異にした。

余は、貧弱な財布より數志を伸べんため、五月より十圓支出し、月餘調査研究東京生活が多くなり、私代かけて、數十年間、國民血沸騰する義人の面影があして、警告的演説をなしたさい。近代科學の粹たる電氣會社警城の天地に萬一思想を敢行するせぬ。少くとも、世界思ありとすれば、須らく、余究し、時代の潮流に棹して深觀猛省百番せよ。而も余明なる現代青年を長敬承服の如き無名の老書生が「郷せしめんとならば、現代日士に捧ぐ」殉郷の丹心に感本の政治家諸君! 卿等は尙にして、上品なる皮肉) 信望を一身に集めて居る君現境は、蓋し多少の苦勞を解すればである。

余が親敬やまぬ、東部電ありと雖も又君が心中の得意株式會社、平營業所々長意思ぶべしではないか。武田精一君は、英國紳士風余は、君に對して私的恩の人間味豊かなユーマー義を蒙る。「數年前、或問トだ。時たま寸鐵殺人的警題の調停者として、余のた句を發放して、對者の心膽めに盡方せられた。しかガキヤリ、チヌリ、七首一し、それは私的問題である。閃の皮肉をカッ飛ばして微余は公私混同を絶排する。苦笑する。

君は春風以つて人に接し如、電燈問題を提げて平劇秋霜以つて自らを警しむ底場に演説會を開き、そが合の「自製の人」(セルフ、理的、合法的、平和的解決メイト、マン)だ。世の所促進のため、「大義親を減オツチヨコチヨイの才す」の大感激の下に斷然起人、策士とその選を異にした。

余は、貧弱な財布より數志を伸べんため、五月より十圓支出し、月餘調査研究東京生活が多くなり、私代かけて、數十年間、國民血沸騰する義人の面影があして、警告的演説をなしたさい。近代科學の粹たる電氣會社警城の天地に萬一思想を敢行するせぬ。少くとも、世界思ありとすれば、須らく、余究し、時代の潮流に棹して深觀猛省百番せよ。而も余明なる現代青年を長敬承服の如き無名の老書生が「郷せしめんとならば、現代日士に捧ぐ」殉郷の丹心に感本の政治家諸君! 卿等は尙にして、上品なる皮肉) 信望を一身に集めて居る君現境は、蓋し多少の苦勞を解すればである。

余が親敬やまぬ、東部電ありと雖も又君が心中の得意株式會社、平營業所々長意思ぶべしではないか。武田精一君は、英國紳士風余は、君に對して私的恩の人間味豊かなユーマー義を蒙る。「數年前、或問トだ。時たま寸鐵殺人的警題の調停者として、余のた句を發放して、對者の心膽めに盡方せられた。しかガキヤリ、チヌリ、七首一し、それは私的問題である。閃の皮肉をカッ飛ばして微余は公私混同を絶排する。苦笑する。

君は春風以つて人に接し如、電燈問題を提げて平劇秋霜以つて自らを警しむ底場に演説會を開き、そが合の「自製の人」(セルフ、理的、合法的、平和的解決メイト、マン)だ。世の所促進のため、「大義親を減オツチヨコチヨイの才す」の大感激の下に斷然起人、策士とその選を異にした。

余は、貧弱な財布より數志を伸べんため、五月より十圓支出し、月餘調査研究東京生活が多くなり、私代かけて、數十年間、國民血沸騰する義人の面影があして、警告的演説をなしたさい。近代科學の粹たる電氣會社警城の天地に萬一思想を敢行するせぬ。少くとも、世界思ありとすれば、須らく、余究し、時代の潮流に棹して深觀猛省百番せよ。而も余明なる現代青年を長敬承服の如き無名の老書生が「郷せしめんとならば、現代日士に捧ぐ」殉郷の丹心に感本の政治家諸君! 卿等は尙にして、上品なる皮肉) 信望を一身に集めて居る君現境は、蓋し多少の苦勞を解すればである。

山崎合名會社 釜屋商店 振替貯金口座東京二〇九五六番 電話長九番・一三九番

振替貯金口座東京一〇九五六番
電話長九番一三九番

東都管見 (一)

先月廿九日、私は突如として、そらだ！ 全く突如として、六年ぶりで上野驛頭に姿を現はした。

「諸君！」と大見得を切る。私はコノすさまじいアトモスフイヤの中に感興豊かな政治劇の見物人となつて、スツカリ興奮してしまつた。

私は東京に來た、そして見た。いろ／＼のものを。六年の久しい間、郷土のソイルの香に親しんで、スツカリ田舎者化した私に、は、めまぐるしい都の巷に投げ出され、私の心は或種の不安と焦燥に捉はれた。

これでは駄目だ、と感激して、私は「日本帝國も大丈夫だ、一番、私はインク」と上野驛頭を駆け抜けて、大股に精養軒まで戻り、民政黨全國黨員懇親大會があるのだ。

民政黨系の「政治ファン」が、北海より、九州より集來した。血眼になつて、狂熱的氣分を以つて、愛黨の純情に燃えて、東西南北より集來したのだ。

「諸君！」と大見得を切る。私はコノすさまじいアトモスフイヤの中に感興豊かな政治劇の見物人となつて、スツカリ興奮してしまつた。

私は東京に來た、そして見た。いろ／＼のものを。六年の久しい間、郷土のソイルの香に親しんで、スツカリ田舎者化した私に、は、めまぐるしい都の巷に投げ出され、私の心は或種の不安と焦燥に捉はれた。

これでは駄目だ、と感激して、私は「日本帝國も大丈夫だ、一番、私はインク」と上野驛頭を駆け抜けて、大股に精養軒まで戻り、民政黨全國黨員懇親大會があるのだ。

民政黨系の「政治ファン」が、北海より、九州より集來した。血眼になつて、狂熱的氣分を以つて、愛黨の純情に燃えて、東西南北より集來したのだ。

熱血の地方黨人諸君は、晴れの檜舞臺に躍る名優の様に……

「政治家であつた。春風秋雨、十數年の長い『政黨生活』の苦勞は、マ、ザン／＼と明らかに、兩將のルミネーションは青く赤く外見……白髪、老衰、顔色光り輝く。西郷翁の銅像は、音聲、態度、等々……に象徴されて居るではないか。に付む。

私ははれ知れぬ哀感にとてか餘韻繼續して鳴る。あゝ……天地有情の夕まぐれだ。いざさらば平安の夢路を辿らう。

片濱とその環境及人物管見
ナカ／＼に興趣多い……村役場は現代的様式の建物だ、ローマ三頭政治の如く、志賀村長、鈴木助役、鈴木収入役の三頭政治は、

豊間村
三軍を叱咤する英雄の如く、天際にそそり立つ燈臺の巨雄姿は、觀者をして高遠雄大の感を抱かしのすにおかない。而もその真下には、太平洋の怒濤、晝夜を捨てず、恒久不斷に水、陸を吞吐して居る。

沼ノ内辨才天 又古
への傳説を物語り、耳の生が、そは何かが學俊を傷で、學俊の胸中秘策ありと、けんが爲めの悪言傳ではあるまいかと、吾人は半ば疑ひ、猪狩は寄附勧誘の爲めに行爲に出づるは、實に言語に小松學俊の醜行は今や白対し學俊は怪しからぬ暴力を以てせんと云ふべきでは、狂瀾怒濤と闘つて、吞舟の巨魚を一網打盡せんす猛威を揮ふ。

の東京を眺めた。東京の電燈は流石に明るく、を善美ならしむべく努を盡して居る。大敷綱とその一黨の越後健児諸君は、郷土警城の産業革命の警鐘を亂打し、海洋立國の國策樹立の方針を實現行以て明示して居る。

阿部、遠藤、酒井の三巨頭、決死的覺悟を以つて事業經營に當つて居る。更に豊間施業森林組合の永遠性ある恒久的事業は、敬服措かざるものがあ。因に氏は文藝愛好家にして、圍碁にも通じて居る。

江名町
漁獲高百何萬を算し、町勢の進展目ざましきものがある。名町長中山氏没後、温厚篤實の河野氏その

破戒僧小松學俊の乱行 (在四倉 公憤生投)
石城郡四倉町新義真言宗智去る三月十日學俊は年來のある小松學俊が事あらう山派如來寺高野山支部住職知人なる平町猪狩某方に投に一夜の宿を請へ且つ神聖小松學俊は常に鬼角の醜聞宿し、翌日猪狩に對し如來なる寺院の寄附勧誘に藉口辱であり、又我國宗教界の

衆生濟度の聖務を汚す……
猪狩は寄附勧誘の爲めに行爲に出づるは、實に言語に小松學俊の醜行は今や白対し學俊は怪しからぬ暴力を以てせんと云ふべきでは、狂瀾怒濤と闘つて、吞舟の巨魚を一網打盡せんす猛威を揮ふ。

松嶺、濤聲交々訪後を繼ぎ、一意専心、郷土のために努力して居る。江名町政要覽を示されて町政一般の概念を與へられ、郷土江名と、その青年のため私財を擲ち、社會奉仕せらるる吉田正雄氏あり、又魚醬油發明家として名噴々たる遠藤俊一郎氏あり。今や漁港は完成した當町將來の發展素晴らしきものであらう。

廣宣
△本紙ノ題名、近ク改題シテ「北日本公論」ト銘名シ月刊高級評論雜誌トセム考ヘデアリマス。
△正直ニシテ早起勤勉、眞實ニシテ熱情アル奮闘的青年數名ヲ急求、自作文章數種持參ノコト
面會時間
自午前六時 至午前八時

破戒僧小松學俊の乱行 (在四倉 公憤生投)
猪狩は寄附勧誘の爲めに行爲に出づるは、實に言語に小松學俊の醜行は今や白対し學俊は怪しからぬ暴力を以てせんと云ふべきでは、狂瀾怒濤と闘つて、吞舟の巨魚を一網打盡せんす猛威を揮ふ。

衆生濟度の聖務を汚す……
猪狩は寄附勧誘の爲めに行爲に出づるは、實に言語に小松學俊の醜行は今や白対し學俊は怪しからぬ暴力を以てせんと云ふべきでは、狂瀾怒濤と闘つて、吞舟の巨魚を一網打盡せんす猛威を揮ふ。

衆生濟度の聖務を汚す……
猪狩は寄附勧誘の爲めに行爲に出づるは、實に言語に小松學俊の醜行は今や白対し學俊は怪しからぬ暴力を以てせんと云ふべきでは、狂瀾怒濤と闘つて、吞舟の巨魚を一網打盡せんす猛威を揮ふ。

- 平銀行頭取 山崎與三郎
- 元代議士 安島重三郎
- 釜屋商店主 諸橋久太郎
- 磐越銀行頭取 中野甲藏
- 磐城實業銀行專務取締役 鈴木辰三郎
- 東電平營業所所長 武田精一
- 堀江工業株式會社 江口忠一
- 小田吉治
- 磐城銀行專務取締役 白井一郎
- 磐城水産株式會社 小野晋平
- 湯本町區會議員 比佐源造
- 工業商會 佐々木健一郎
- 好間軌道株式會社 山崎佐市郎
- 内鄉村々會議員 加藤丈夫
- 四家又一

<p>磐城炭礦株式會社 入山炭採礦株式會社 小田炭礦株式會社 古河炭業株式會社</p>	<p>石城郡 第一區 小學校長會 第二區 小學校長會 第三區 小學校長會 第四區 小學校長會</p>	<p>平町公立學校長 懇話會</p>	<p>平運輸株式會社</p>	<p>石城郡銀行組合 平藝妓屋組合 平建築指物業組合 平材料理健組 平三業保險業組合 平西洋料理業組合</p>	<p>平町四丁目 伊勢屋</p>	<p>平町研町 吉村製綿店 電話二五七番</p>	<p>平町四丁目 株式會社 百澤商店</p>	<p>平町四丁目 會田時計店 電話三六三番</p>	<p>平町々會議員一同</p>
<p>平町信用組合</p>	<p>磐城共濟病院 院長醫學博士 難波 睦 主事 加澤 忠治 電話六四一番</p>	<p>平町大工町 多田井質店</p>	<p>平町仲町 河田梅吉商店</p>	<p>平町一丁目 平銃砲火藥店</p>	<p>平町二丁目 西村屋藥舖 電話三番</p>	<p>平町四丁目 關內藥舖 醫療藥品 工業藥品 有名賣藥 洋酒罐詰 染料塗料 藥劑士 關內榮助 電話四〇番 電話略(七キ) 振替仙臺六五六一六番</p>	<p>平町四丁目 柴田書店 電話二三四番</p>	<p>平町四丁目 鶴屋商店 電話一四〇番</p>	<p>平町字田町 高久病院 院長醫學士 高久 忠 電話一三五</p>
<p>町倉杉原新伍 四倉會社銀行組合</p>	<p>町小名濱町 大敷網事務所 郡司次郎 白井三郎</p>	<p>磐城海岸軌道株式會社 丹野寬平</p>	<p>二本松電氣株式會社 小名濱支店</p>	<p>町勿來町 町會長 大平睦四郎 町會議員 赤津庄兵衛 赤津一 赤津酒造店 〔平支店 平館前 大黒屋〕</p>	<p>白米鶴ノ湯 坂本淺次郎 齋藤醫院</p>	<p>川部村々長 兒王萬平</p>	<p>好間村 村長 金成淺治 收入役 鈴木榮一</p>		
<p>豐間村役場 村長 志賀兼吉 助役 鈴木藤次郎 收入役 鈴木清利</p>	<p>縣立回春園々長 醫學士 川井重之 大敷網事務所一同</p>	<p>豐間施業森林組合 理事 四家文吉</p>	<p>監事 遠藤嘉吉 遠藤嘉三郎 遠藤仙右衛門 鈴木政次郎 橋本仁左衛門</p>	<p>江名町 町會長 河野嘉藏 町會議員 吉田正雄</p>	<p>本町 湯本信用無盡株式會社 湯本藝妓屋組合 湯本信用組合長 若松條助</p>	<p>◎以下次號</p>			